

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4708730号
(P4708730)

(45) 発行日 平成23年6月22日 (2011. 6. 22)

(24) 登録日 平成23年3月25日 (2011. 3. 25)

(51) Int. Cl.

A 4 5 D 40/20 (2006.01)

F 1

A 4 5 D 40/20

G

請求項の数 4 (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2004-142480 (P2004-142480)
 (22) 出願日 平成16年5月12日 (2004. 5. 12)
 (65) 公開番号 特開2005-323675 (P2005-323675A)
 (43) 公開日 平成17年11月24日 (2005. 11. 24)
 審査請求日 平成19年4月27日 (2007. 4. 27)

(73) 特許権者 000252090
 鈴野化成株式会社
 東京都新宿区下落合 1 丁目 3 番 2 2 号
 (74) 代理人 100075513
 弁理士 後藤 政喜
 (74) 代理人 100114236
 弁理士 藤井 正弘
 (74) 代理人 100120260
 弁理士 飯田 雅昭
 (74) 代理人 100137604
 弁理士 須藤 淳
 (72) 発明者 大庭 淳
 東京都新宿区下落合 1 - 3 - 2 2 鈴野化
 成株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】化粧材容器のカートリッジ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

棒状化粧材が進退する開口孔を備え、この開口孔とほぼ同寸法で貫通孔を穿設し、この貫通孔に沿って複数の摺動溝を形成した先筒と、

棒状化粧材を保持する複数の爪片を先端に備え、この爪片を前記複数の摺動溝に位置させ、前記先筒と同期に回転する手段をとられた芯チャック部材と、

前記先筒に回転可能に連結される基筒より構成される化粧材容器のカートリッジであって、

前記基筒の容器本体嵌入部には、容器に嵌着したときに容器本体と同期に回転する手段が取られるとともに前記基筒の内径にはローレット状螺旋が螺旋部としてストローク長形成され、前記芯チャック部材の後部に突設された係合突起が前記螺旋部に螺合して繰出機構を構成し、

前記芯チャック部材の棒軸後部には、鍵状スリット又は螺条スリットが形成され、前記鍵状スリット又は前記螺条スリットが軸方向に縮小することによって軸方向に弾性を有して伸縮する円筒部が設けられ、この円筒部の外周より係合突起を突設し、この係合突起が弾性的に前記基筒のローレット状螺旋に螺合していることを特徴とする化粧材容器のカートリッジ。

【請求項 2】

前記先筒の全長が摘み部として形成され、この先筒端面外形より小径な円筒体が基筒容器本体嵌入部として連結され、この容器本体嵌入部外周に容器本体との着脱に使用される

10

20

嵌合凸部と、前記容器本体と同期に回転する手段が配置されて全姿を形成する、請求項 1 記載の化粧品容器のカートリッジ。

【請求項 3】

前記芯チャック部材の円筒部前端の繰上当接部が先筒腔部内の当接段部に当接することで、繰上前進限が決定されることを特徴とする請求項 1 記載の化粧品容器のカートリッジ。

【請求項 4】

前記芯チャック部材の前進限及び後退限において、過負荷が回動力として加えられた際、基筒が芯チャック部材に対してクラッチすることを特徴とする請求項 1 記載の化粧品容器のカートリッジ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は細径な棒状化粧材を内蔵する化粧品容器のカートリッジに関し、棒状化粧材は先筒内の複数の摺動溝に位置する芯チャック部材の先端に形成された爪片によって保持摺動される。

【背景技術】

【0002】

カートリッジ式棒状化粧材繰出容器で、先筒の先端に棒状化粧材の進退する開口孔を備え、この開口孔とほぼ同寸法で貫通孔を穿設し、この貫通孔の周囲に摺動溝を配するとともに、芯チャック部材の先端を爪片とし、この爪片を前記摺動溝に位置させて、棒状化粧材の保持を行い、カートリッジを容器本体に嵌着して、カートリッジと容器本体との相互回転によってカートリッジ内の棒状化粧材を進退させる構成は、特開 2003-159119 号公報の図 12 に公示されている。

【0003】

この発明は、カートリッジを最少部材とするとともに、繰り出しの前進限、後退限でカートリッジの本体筒が芯チャック部材に対してクラッチ回転することで、容器の安全を図ろうとするものである。

【0004】

アイブロー、アイライナー等の小径でもろい棒状化粧材は、前記爪片による保持方法では先筒内で微かな間隔によって保持摺動するため、従来のカップ形状の芯チャックよりも落下や曲がりに対する保護機能においてはすぐれている。

【特許文献 1】特開 2003-159119 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

図 11 に従来例として開示される特開 2003-159119 号公報のカートリッジは、最少部材で構成され、安価に制作可能ではあるが、前進限のクラッチが爪片 232a の先端が摺動溝の先端 212a に当接して、その加圧で本体筒前端に設けたスリット 224 間に形成した係合突起 223 が芯チャック部材 230 の竿体 236 の表面に形成された螺旋部 237 に対してクラッチする手段を用いるため、クラッチする際の振動が爪片に伝達され、棒状化粧材に影響を与えることが危惧され、棒状化粧材のテクスチャーに制限が加わることが懸念される。

【0006】

本発明は、このような問題点に着目してなされたものであり、爪片を使用し、棒状化粧材を保持摺動するカートリッジであり、特開 2003-159119 号公報と同様に最少部材の 3 部材より構成されるとともに、繰り出しの前進限で爪片の先端と摺動溝の先端が当接せず、前進限後退限でクラッチすることも可能な化粧品容器のカートリッジを提供することを目的とした発明である。

【0007】

10

20

30

40

50

さらには、爪片で保持される棒状化粧材は、前後に微かな伸縮性を有するため、化粧を施す際のタッチが非常に柔らかく、使用感も改良したものである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

そのため、本発明の化粧材容器のカートリッジは、棒状化粧材が進退する開口孔を備え、この開口孔とほぼ同寸法で貫通孔を穿設し、この貫通孔に沿って複数の摺動溝を形成した先筒と、棒状化粧材を保持する複数の爪片を先端に備え、この爪片を前記複数の摺動溝に位置させ、前記先筒と同期に回転する手段をとられた芯チャック部材と、前記先筒に回転可能に連結される基筒より構成される化粧材容器のカートリッジであって；前記基筒の容器本体嵌入部には、容器に嵌着したときに容器本体と同期に回転する手段が取られるとともに前記基筒の内径にはローレット状螺旋が螺旋部としてストローク長形成され、前記芯チャック部材の後部に突設された係合突起が前記螺旋部に螺合して繰出機構を構成し、前記芯チャック部材の棒軸後部には、鍵状スリット又は螺条スリットが形成され、前記鍵状スリット又は前記螺条スリットが軸方向に縮小することによって軸方向に弾性を有して伸縮する円筒部が設けられ、この円筒部の外周より係合突起を突設し、この係合突起が弾性的に前記基筒のローレット状螺旋に螺合する手段を講じるものである。

10

【0009】

第2の発明においては、前記先筒の全長が摘み部として形成され、この先筒端面外径より小径な円筒部が基筒容器本体嵌入部として連結され、この容器本体嵌入部外周に容器本体との着脱に使用される嵌合凸部と、前記容器本体が同期に回転する手段が配置されて全姿を形成する手段を講じたものである。

20

【0011】

第3の発明においては、前記芯チャック部材の円筒部前端的繰上当接部が先筒腔部内の当接段部に当接することで、繰上前進限が決定される手段を講じたものである。

【0012】

第4の発明においては、前記芯チャック部材の前進限及び後退限において、過負荷が回転力として加えられた際、基筒が芯チャック部材に対してクラッチする手段を講じたものである。

【発明の効果】

【0013】

以上の手段を講じることにより、本発明の化粧材容器のカートリッジは、容器本体に嵌着し容器本体とカートリッジの回転操作で棒状化粧材が先筒の先端開口孔より進出して化粧を使用可能とするもので、第1の発明より化粧材容器のカートリッジは先筒と、芯チャック部材と、基筒の最少部材より構成され、芯チャック部材先端の複数の爪片は、先筒内の摺動溝に位置して棒状化粧材を保持し、前記先筒と同期に回転する手段が取られ、前記先筒と回転可能に連結される基筒は、容器本体に嵌着したときに基筒の容器本体嵌入部のいずれかの部位で容器本体と同期に回転する手段が取られるとともに、前記基筒の内径には軸方向にローレット状螺旋が螺旋部として形成され、前記芯チャック部材と螺合して繰出機構を構成し、前記芯チャック部材の棒軸後部には、スリットが形成されることによって軸方向に弾性を有して伸縮する円筒部が設けられ、この円筒部の外周より係合突起を突設し、この係合突起が弾性的に前記基筒のローレット状螺旋に螺合している。

30

40

【0014】

基筒内の連続した凹凸で形成されたローレット状螺旋を繰出機構として使用することで、様々な特徴を有する化粧材容器のカートリッジとすることが可能となった。また、前記芯チャック部材の棒軸後部には軸方向に弾性を有して伸縮する円筒部が設けられ、この円筒部外周より係合突起を突設し、この係合突起が弾性的に前記基筒の連続した凹凸で形成されたローレット状螺旋に螺合することで、螺合離脱をしやすく、また螺合復帰をしやすい螺合機構とすることが可能となる。さらには、軸方向に弾性を有して伸縮する円筒部が設けられることで、棒状化粧材が軸方向に微かに伸縮するため、使用者は固い芯材でもソフトなタッチで、柔らかい芯材ならよりソフトに感じながら化粧を施すことができる。ま

50

た、この軸方向の伸縮は、落下や振動に対しても棒状化粧材を保護する役目となる。

【 0 0 1 5 】

第 2 の発明で、本発明の化粧材容器のカートリッジは、前記先筒の全長が摘み部として形成され、この先筒端面外径より小径な円筒体が基筒容器本体嵌入部として連結され、この容器本体嵌入部外周に容器本体との着脱に使用される嵌合凸部が設置され、カートリッジの全姿が形成されるため、基筒内に螺旋部が形成されているにもかかわらず、基筒の容器本体嵌入部を小径とすることが可能となり、容器本体そのものを小径とすることが出来る。

【 0 0 1 9 】

第 3 , 及び第 4 の発明で、前記芯チャック部材の円筒部前端の繰上当接部が先筒腔部内の当接段部に当接することで、繰上上昇限が決定するとともにこの前進限で芯チャック部材先端の爪片が摺動溝の先端に当接しない設計がなされるとともに、回動過負荷がかけられると前記螺合離脱が行われ、クラッチ回転することで棒状化粧材や繰出機構の保護を行う。

【 0 0 2 0 】

又、逆に回動することで、螺合復帰が簡単に行え、繰出機構が復元する。後退限においても、同様なクラッチ回転が行われる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 2 1 】

本発明の化粧材のカートリッジは、先筒 1 0 と基筒 2 0 、及び芯チャック部材 3 0 の 3 部材で構成され、容器本体 2 に装填されたとき、基筒 2 0 は容器本体と同期に回動する手段をとられ、カートリッジ 1 の摘み部 a と容器本体 2 の相互回動でカートリッジ 1 内の棒状化粧材が進退する。

【実施例】

【 0 0 2 2 】

本発明を添付図面により詳細に説明する。

図 1 ~ 5 は、第 1 の実施の形態を示す第 1 実施例であり、図 1 はカートリッジ 1 の縦一部断面図であり、図 2 は、カートリッジ 1 の各部材、先筒 1 0 , 基筒 2 0 , 芯チャック部材 3 0 の各縦一部断面図で、特徴のある部位には先筒 1 0 には 1 0 桁の、基筒 2 0 には 2 0 桁の数字が示されている。図 3 はカートリッジ 1 を収容する容器本体 2 を示す縦一部断面図で、第 4 はカートリッジ 1 を容器本体 2 に装填した状態を示し、図 5 はカートリッジ 1 の摘み部 a と容器本体 2 を回転操作して芯チャック部材 3 0 は繰上前進限に至った状態を示した図である。

【 0 0 2 3 】

図 2 より各部材の特徴ある部位を説明する。

先筒 1 0 は、棒状化粧材 A が進退可能な寸法で穿設された先端開口孔 1 1 を備え、この先端開口孔 1 1 はほぼ同寸法で貫通孔 1 3 として形成される。

【 0 0 2 4 】

又、この貫通孔 1 3 に沿って十字に摺動溝 1 2 が設けられ、先筒 1 0 の後部内径は腔部 1 4 として形成されて、ここには基筒 2 0 を回動可能に連結する嵌合凹部 1 5 が設けられている。

【 0 0 2 5 】

基筒 2 0 は有底部 2 5 を有する円筒体として形成され、軸方向に上部開口部 2 1 側より先筒嵌入部 c 、容器本体嵌入部 b に区分され、先筒嵌入部 c は、先筒 1 0 との嵌合に使用される先筒嵌合部 2 6 が突設され、容器本体嵌入部 b には容器本体 2 の嵌合凹部 4 2 と着脱自在に嵌合する嵌合凸部 2 7 が突設される。

【 0 0 2 6 】

又、実施例では先筒 1 0 と基筒 2 0 との回動を円滑にするために O リング 2 0 a が、又容器本体 2 と基筒 2 0 との間に生じるガタを防止するための O リング 2 0 b が、基筒 2 0 の外周に巻装されている。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 7 】

基筒 2 0 内径には上部開口部 2 1 より有底部 2 5 にいたる軸方向に連続した凹凸でローレット状螺旋 2 3 が螺旋部 2 2 として形成される。

【 0 0 2 8 】

さらに、基筒 2 0 の外周後部には、係合リブ 2 4 が設置され、容器本体 2 に嵌着した際容器本体 2 とスプライン係合で基筒 2 0 が同期に回転する。

【 0 0 2 9 】

実施例では基筒 2 0 の外周に設置した係合リブ 2 4 によって容器本体 2 と同期に回転する手段としている。

【 0 0 3 0 】

芯チャック部材 3 0 は、先端に棒状化粧材保持部 3 1 として爪片 3 2 を 4 片備え、この爪片 3 2 に延設される棒軸 3 4 は凸条 3 3 を含む十字状に形成され、後部には円筒部 3 5 が形成される。この円筒部 3 5 は前端が繰上当接部 3 8 として形成され、外周軸方向にスリット 3 5 a が配されるとともに、後端のスリット 3 5 b によって形成された凸片 3 7 表面に係合突起 3 6 が 4 個突設される。この係合突起は 1 個でもよいが、安全のために複数片設けた方がよい。

【 0 0 3 1 】

上記各部材より構成される図 1 のカートリッジ 1 は、先筒 1 0 の全長 1 8 は、摘み部 a、基筒 2 0 の容器本体嵌入部 b で全姿が形成され、内蔵される芯チャック部材 3 0 は棒状化粧材 A の尾部を爪片 3 2 で保持し、この爪片 3 2 は、先筒 1 0 内の摺動溝 1 2 内に位置している。

【 0 0 3 2 】

前記爪片 3 2 より延設される棒軸 3 4 の凸条 3 3 は、それぞれの摺動溝 1 2 に係合して回転止め機構を構成し、芯チャック部材 3 0 後部に突設された係合突起 3 6 は、基筒 2 0 内の連続した凹凸より形成されるローレット状螺旋 2 3 に弾性的に螺合して繰出機構を構成する。

【 0 0 3 3 】

基筒 2 0 の外形寸法は、先筒 1 0 の端面 1 6 外形寸法より小径な円筒体で形成され、容器本体嵌入部 b として先筒 1 0 に連結され、この容器本体嵌入部 b 外周に容器本体との着脱に使用される嵌合凸部 2 7 が設置されている。

【 0 0 3 4 】

図 2 の (C) 図に見られる如く、凸条 3 3 の外形寸法をもって前記円筒部 3 5 の外径とすればよく、この円筒部 3 5 より突設される係合突起 3 6 は、(E) 図のローレット状螺旋 2 3 の谷部に螺合するため、基筒 2 0 は内径に螺旋部 2 2 が形成されているにもかかわらず、基筒 2 0 外径を小径とすることが可能なので、図 3 に示す容器本体 2 の外径をも小径とすることが可能となり、結局小径でスマートな、図 4 に示すカートリッジ式棒状化粧材繰出容器 5 となる。

【 0 0 3 5 】

図 3 は、図 1 のカートリッジ 1 を収容する容器本体 2 を示す図で、容器本体 2 は、カートリッジ 1 を挿入可能な前部開口孔 4 1 を備えた円筒体で形成された外筒 4 0 と、この外筒 4 0 の後部の小径部 4 0 a に固着されたマスカラ刷毛 4 を保護するキャップ 3 とで構成される。

【 0 0 3 6 】

図 4 は、カートリッジ 1 を容器本体 2 に嵌着した状態を示す図で、カートリッジ 1 の容器本体嵌入部 b は、容器本体 2 の前部開口孔 4 1 より挿入され、腔部 4 3 に収容され、嵌合凹部 4 2 と容器本体嵌入部 b に突設された嵌合凸部 2 7 との嵌合によって、容器本体 2 に確実に連結される。この際、係合リブ 2 4 と、容器本体 2 内のスプライン係合部 4 4 がスプライン係合することで、基筒 2 0 は容器本体 2 と同期に回転する。

【 0 0 3 7 】

カートリッジ 1 の摘み部 a と容器本体 2 とを回転すると、容器本体 2 は、カートリッジ

10

20

30

40

50

１の基筒２０とスプライン係合しているので結局先筒１０と基筒２０の回転が行われ、前記説明した繰出機構で、棒状化粧材Ａは先筒１０の先端開口孔１１より進出して化粧を施すことが可能となる。又逆に回転すれば、棒状化粧材Ａは、先筒１０内に収容される。

【００３８】

化粧を施す際に、棒状化粧材Ａは、芯チャック部材３０のスリット３５ａの影響で、弾力を持って肌に当接する。

【００３９】

図５は芯チャック部材３０を繰上前進限まで繰り出した状態を示すもので、芯チャック部材３０後部の円筒部３５前端の繰上当接部３８は、先筒１０の腔部１４前端の当接段部１７に当接して、繰上前進限が決定される。

10

【００４０】

この際、爪片３２の先端は、摺動溝１２の先端の下向き段部に当接しない設定となっているため、繰上前進限で爪片３２には負荷がかからない設計となっているので、あらゆるテクスチャーの棒状化粧材に適用しうる化粧材容器のカートリッジ１となっている。

【００４１】

さらに、この前進限で、摘み部ａと容器本体２の回転負荷がかかると、芯チャック部材３０円筒部３５に弾性を有して突設された係合突起３６は、連続した凹凸で形成された基筒２０内のローレット状螺旋２３に対して、簡単に螺合離脱を繰り返し、この際力チカチと発生音を立てて使用者に繰り出しの前進限を知らせる。逆に回転すれば係合突起３６は簡単に螺合復帰して、棒状化粧材Ａを先筒１０内に収容する。

20

【００４２】

又、繰り出しの後退限で同様な更なる芯チャック部材３０を後退させる回転負荷がかかった場合も、繰り出し前進限と同様に螺合離脱を繰り返し、発生音をたてて使用者に知らせる。

【００４３】

なお実施例においては、円筒部３５に鍵状スリット３５ａが軸方向に設置されている。これは、化粧時の棒状化粧材Ａの軸方向の弾性を与えるとともに、後退限における芯チャック部材３０のクラッチ時の反動を少なくして爪片３２に対する振動をより少なくするためになされたものである。

【００４４】

後退限でのクラッチ回転は、前進限のクラッチ回転とは異なり、クラッチの振動が棒状化粧材を爪片３２より押し出す方向に力が加わるのを防ぐために、鍵状スリット３５ａが設置されている。

30

【００４５】

本発明は、化粧材容器のカートリッジ１に関する発明であり、先筒１０と基筒２０と芯チャック部材３０とで構成され、基筒２０が小径な円筒体として回転可能に先筒１０に連結され、カートリッジ１の全姿を形成しているとともに、基筒２０内に軸方向に螺旋部２２が連続した凹凸で形成されるローレット状螺旋２３で形成され、芯チャック部材３０が前記ローレット状螺旋２３に対して弾性を有して螺合しているので、螺合離脱と螺合復帰をしやすいのを利用して、棒状化粧材と繰出機構の保護を行っていることを特徴としている。

40

【００４６】

第１実施例においては、芯チャック部材３０の係合突起３６は、スリット３５ｂに寄って形成された凸片３７に円周上に突設されたが、これに限定されるのではなく、軸方向に多数突設しても、本発明の技術範疇に属するものである。

【００４７】

図６～図８は、第２の実施の形態を示す図であり、図６は化粧材容器のカートリッジ１０１の縦一部断面図を示し、図７はカートリッジ１０１の各部材、先筒１１０、基筒１２０、芯チャック部材１３０の各部位を示したもので、図８は図３に示す容器本体２にカートリッジ１０１を装填し、繰上の前進限まで棒状化粧材Ｂを繰り上げた状態を示す図であ

50

る。

【0048】

第2実施例も第1実施例同様、図7に示す如く先筒110と基筒120と芯チャック部材130とで構成され、第1実施例と同様に先筒110は先端開口孔111を備え、貫通孔113が穿設され、この貫通孔113に沿って摺動溝112が形成され、芯チャック部材130先端の爪片132は前記摺動溝112に位置して棒状化粧材をを保持摺動し、この爪片132より延設される棒軸134は、十字形摺動溝112に係合して回転止め機構を構成している。又、棒軸134腔部には円筒部135が設けられ、この円筒部135に螺条スリット135aが設けられるとともに、外周に係合突起136が突設され、後述する基筒120の螺旋部に螺合して繰出機構を構成している。

10

【0049】

基筒120は、第1実施例と同様な外径と形状をしており、内部のローレット状螺旋123が内径の約2/3の螺旋切り始めの螺旋部上端部122aより底面まで螺旋部122がストローク長形成されている。

【0050】

第2実施例の特徴は、繰上前進限における回動負荷におけるクラッチ回転にあり、図8に示される。

【0051】

図6に示される摘み部a'と容器本体嵌入部b'より全姿が形成されるカートリッジは、図3に示される容器本体3に装填されると、摘み部a'と容器本体2との回動によって基筒120の係合リブ124によって容器本体2と基筒120は同期に回転し、先筒110と基筒120の回動によって繰出機構が作動し、棒状化粧材Bは先筒110の先端開口孔111より進出し、化粧を可能とする。化粧を施す際、芯チャック部材130の円筒部135に形成した螺条スリット135aによって軸方向に弾性をもって棒状化粧材Bが使用者の肌に当接するため、ソフトなタッチでの化粧を可能とする。

20

【0052】

又、図8に示す繰上前進限でさらに回動する負荷がかかると、芯チャック部材130の円筒部135前面の繰上当接部138は、先筒110内の当接段部117に当接しているので、螺条スリット135aは軸方向に縮小し、係合突起下端部136aが螺旋部上端部122aを抜け出し、ローレット状螺旋123の谷部と山部を、螺条スリット135aの軸方向の弾性で、抜け出しによる螺合離脱と螺合復帰を繰り返す、このときカチカチと音を立てて使用者に繰り出しの前進限を知らせる。

30

【0053】

第1実施例では、芯チャック部材30の円筒部35に鍵状スリット35aを設け、軸方向の弾性を持たせるとともに、スリット35bによって凸片37の表面に係合突起36を突設したことによって、基筒20内の連続した凹凸より形成されるローレット状螺旋に弾性を有して螺合させ、凸片37の弾性で螺合離脱と螺合復帰をしやすくしたのに対し、第2実施例では、芯チャック部材130の円筒部135に螺条スリット135aを設け、軸方向の弾性を持たせ、基筒120内径に螺旋部上端部122aの螺旋切り始めを有する螺旋部122を軸方向に設置し、前記芯チャック部材130の円筒部135後部に係合突起136を突設して前記螺旋部122に螺合させるとともに、繰上前進限で円筒部135を螺条スリット135aによる縮小で係合突起136を螺旋部122より抜け出させ、円筒部135の螺条スリット135aの復元力で前記係合突起136が又螺旋部122に螺合する手段をとったもので、第1実施例、第2実施例とも基筒20、120内の連続した凹凸より形成されるローレット状螺旋23、123で螺旋部22、122を形成した事を特徴とし、芯チャック部材30、130後部の係合突起36、136に螺合している。

40

【0054】

さらには、芯チャック部材30、130には、後部には円筒部35、135が設けられ、この円筒部には鍵状スリット35aや螺条スリット135aが設けられ、円筒部35、135が軸方向に弾性を有する手段がとられる。

50

【 0 0 5 5 】

図 9 ~ 図 1 0 は、第 3 の実施の形態を示す、化粧材容器のカートリッジ 2 0 1 を開示したもので、図 9 はカートリッジ 2 0 1 の縦一部断面図を示し、図 1 0 は使用される部位を示している。

【 0 0 5 6 】

カートリッジ 2 0 1 は、第 1 実施例のカートリッジ 1 と同様な繰出機構と作動をするものであるが、棒状化粧材 C が楕円形状に形成されているため、図 1 0 で示す (A ') 図の先筒 2 1 0 は、先端開口孔 2 1 1 が前記楕円芯の棒状化粧材 C が摺動可能な相似楕円先端開口孔 2 1 1 として配され、(B ') 図に見られる如く摺動溝 2 1 2 は貫通孔 2 1 3 の長軸に沿って短軸に対峙して一対もうけられていることを特徴としている。

10

【 0 0 5 7 】

一対の爪片 2 3 2 によって棒状化粧材保持部 2 3 1 を構成し、(C ') 図に示すように凸条 2 3 3 も一対の凸条として摺動溝 2 1 2 に係合して回転止め機構を構成する。

【 0 0 5 8 】

カートリッジ 2 0 1 が図 3 の容器本体 2 に装填され、摘み部 a と容器本体 2 との回転操作によって第 1 実施例と同様な繰出機構によって棒状化粧材 C は先筒 2 1 0 の先端開口孔 2 1 1 より進出する。化粧を施す際には、芯チャック部材 2 3 0 の円筒部 2 3 5 に設けた鍵状スリット 2 3 5 a の軸方向の弾性によって、ソフトなタッチで化粧を施すことが可能である。

【 0 0 5 9 】

又、繰上前進限後退限の回動負荷には、係合突起 2 3 6 が基筒 2 2 0 内の螺旋部に対し、螺旋離脱と螺旋復帰を繰り返すことでカチカチと音を立て、使用者にこれを知らせるとともに、繰出機構と棒状化粧材 C の安全性を保証する。

20

【 0 0 6 0 】

本発明は、化粧材容器のカートリッジに関する発明であり、先筒と基筒を先筒端面の外径より小径な円筒体として回動可能に連結し、基筒内に連続した凹凸により形成されるローレット状螺旋を螺旋部として軸方向にストローク長設け、芯チャック部材の後部に突設した係合突起によって繰出機構を構成することで、安全性が高く、最少の部品点数で構成されるとともに、外径が小径なカートリッジを提供可能とした発明である。

【 図面の簡単な説明 】

30

【 0 0 6 1 】

【 図 1 】 本発明の第 1 実施例に使用されるカートリッジの縦一部断面図である。

【 図 2 】 図 1 のカートリッジに用いられる各部材の縦一部断面図である。

【 図 3 】 第 1 実施例で示されているカートリッジが装着される容器本体の縦一部断面図である。

【 図 4 】 図 1 のカートリッジを図 3 の容器本体に装着した状態を示す縦一部断面図である。

【 図 5 】 図 4 で示されているカートリッジ式棒状化粧材繰出容器の繰上前進限の状態を示す縦一部断面図である。

【 図 6 】 本発明の第 2 実施例において使用されるカートリッジの縦一部断面図である。

40

【 図 7 】 図 6 のカートリッジの各部材を示す縦一部断面図である。

【 図 8 】 第 2 実施例のカートリッジ式棒状化粧材繰出容器の繰上前進限の状態を示す縦一部断面図である。

【 図 9 】 本発明の第 3 実施例において使用されるカートリッジの縦一部断面図である。

【 図 1 0 】 第 3 実施例のカートリッジ式棒状化粧材繰出容器で使用される各部材の縦一部断面図である。

【 図 1 1 】 従来例である。

【 符号の説明 】

【 0 0 6 2 】

1 カートリッジ

50

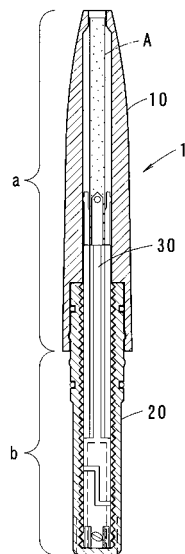
2	容器本体	
3	キャップ	
4	マスカラ刷毛	
5	カートリッジ式棒状化粧材繰出容器	
A	棒状化粧材	
a	摘み部	
b	容器本体嵌入部	
c	先筒嵌入部	
1 0 . . .	先筒	
1 1 . . .	先端開口孔	10
1 2 . . .	摺動溝	
1 3 . . .	貫通孔	
1 4 . . .	腔部	
1 5 . . .	嵌合凹部	
1 6 . . .	端面	
2 0 . . .	基筒	
2 0 a . .	Ｏリング	
2 0 b . .	Ｏリング	
2 1 . . .	上部開口部	
2 2 . . .	螺旋部	20
2 3 . . .	ローレット状螺旋	
2 4 . . .	<u>係合リブ</u>	
2 5 . . .	有底部	
2 6 . . .	先筒嵌合部	
2 7 . . .	嵌合凸部	
3 0 . . .	芯チャック部材	
3 1 . . .	棒状化粧材保持部	
3 2 . . .	爪片	
3 3 . . .	凸条	
3 4 . . .	棒軸	30
3 5 . . .	円筒部	
3 5 a . .	スリット	
3 5 b . .	スリット	
3 6 . . .	係合突起	
3 7 . . .	凸片	
3 8 . . .	繰上当接部	
1 0 1 . .	カートリッジ	
B	棒状化粧材	
1 1 0 . .	先筒	
1 1 1 . .	先端開口孔	40
1 1 2 . .	摺動溝	
1 1 3 . .	貫通孔	
1 1 7 . .	当接段部	
1 2 0 . .	基筒	
1 2 2 . .	螺旋部	
1 2 2 a .	螺旋部上端部	
1 2 3 . .	ローレット状螺旋	
1 2 4 . .	係合リブ	
1 3 0 . .	芯チャック部材	
1 3 2 . .	爪片	50

- 1 3 4 ・ ・ 棒軸
- 1 3 5 ・ ・ 円筒部
- 1 3 5 a ・ 螺条スリット
- 1 3 6 ・ ・ 係合突起
- 1 3 6 a ・ 係合突起下端部
- 1 3 8 ・ ・ 繰上当接部
- 2 0 1 ・ ・ カートリッジ
- C ・ ・ ・ ・ 棒状化粧材
- 2 1 0 ・ ・ 先筒
- 2 1 1 ・ ・ 先端開口孔
- 2 1 2 ・ ・ 摺動溝
- 2 1 3 ・ ・ 貫通孔
- 2 2 0 ・ ・ 基筒
- 2 3 0 ・ ・ 芯チャック部材
- 2 3 1 ・ ・ 棒状化粧材保持部
- 2 3 2 ・ ・ 爪片
- 2 3 3 ・ ・ 凸条
- 2 3 5 ・ ・ 円筒部
- 2 3 5 a ・ 鍵状スリット
- 2 3 6 ・ ・ 係合突起

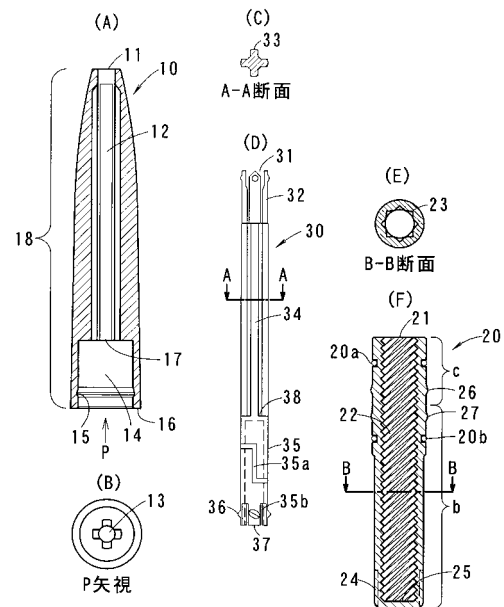
10

20

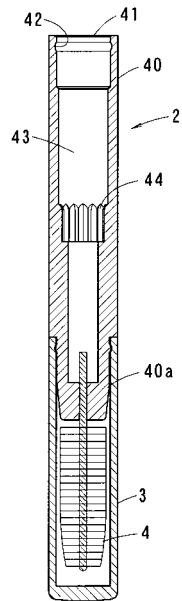
【図 1】



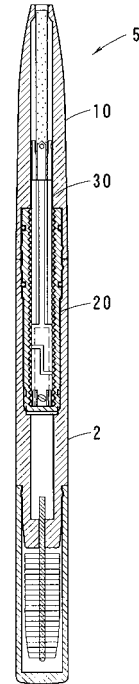
【図 2】



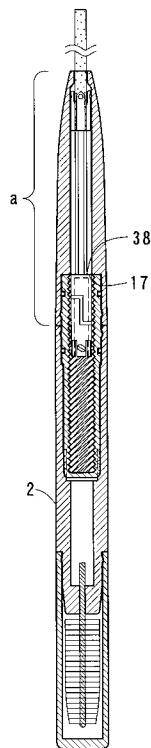
【図 3】



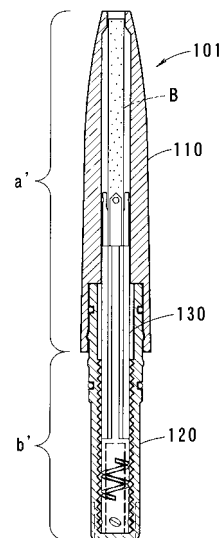
【図 4】



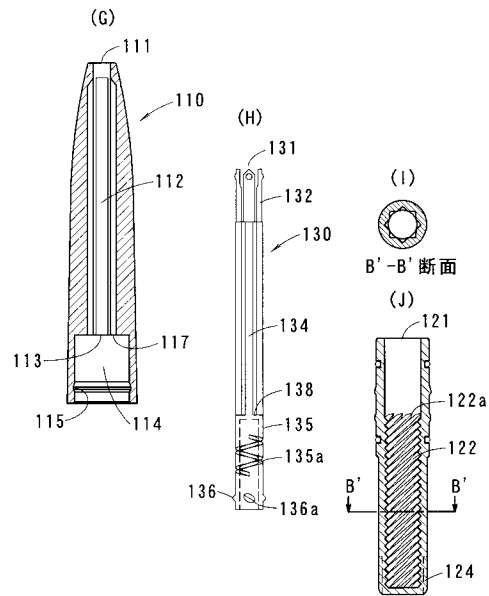
【図 5】



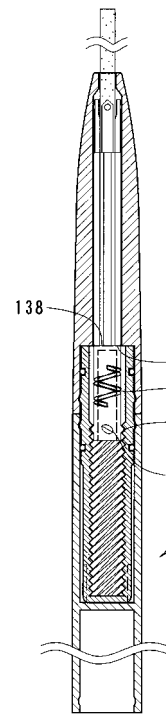
【図 6】



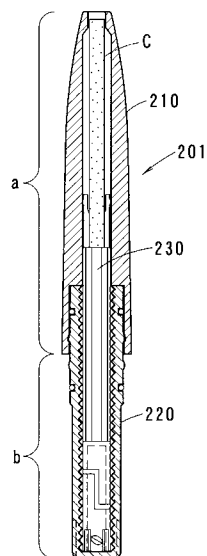
【図 7】



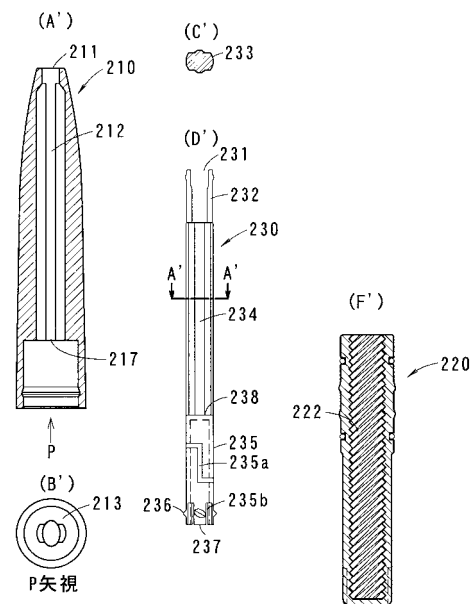
【図 8】



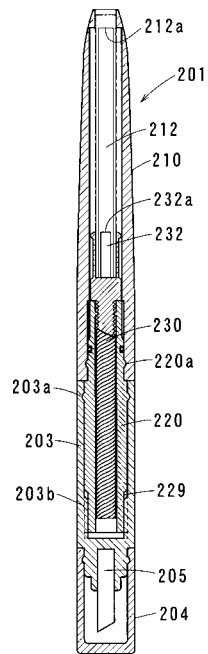
【図 9】



【図 10】



【図 11】



フロントページの続き

審査官 平田 慎二

(56)参考文献 特開 2 0 0 3 - 1 5 9 1 1 9 (J P , A)
特開 2 0 0 4 - 0 9 7 5 4 9 (J P , A)
特開 2 0 0 2 - 1 9 1 4 3 1 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
A 4 5 D 4 0 / 0 0 - 4 0 / 2 0